**木のいえ一番ゼミナール木塾　経年で美化する建物を目指して**

**3．木のいえを長持ちさせる（腐朽・蟻害）　　理解度確認テスト**

**名前　　　　　　　　　　　　　　　　　理解度　　　　　　/100**

Q.　動画内で紹介した木のいえを長持ちさせることについて、空欄に適切な語を記入、もしくは選択しなさい。　　　 ※同じ番号が繰り返し出てくる箇所は、最初の番号に記載せよ

１．木のいえを長持ちさせるために大切なことは、➀（　　　　　　　）と②（　　　　　　　　　　　）から守ることである。

木が腐る原因は、空気中に存在している③（　　　　　　　　　　）が繁殖することである。③（　　　　　　　　　　）はどこにでもいるが、4条件がそろって初めて繁殖し、木が腐る。4条件とは、栄養となる木材、④（　　　　　）、⑤（　　　　）、酸素であり、このうちコントール可能なものは④（　　　　　）である。

２．腐朽しやすい箇所や腐りやすい部位、その対策について

■腐朽しやすい場所

* デッキなどの水平な面や上向き亀裂の内部など水分が⑥（　　　　　　）する箇所。
* 木の重なり部分や接合部など⑦（　　　　　　）しにくい箇所。
* 地面の跳ね返り水のあたる箇所。
* 地面に近いなど⑧（　　　　　）が多い箇所。
* 軒から⑨（　近い / 遠い　）外壁下部など雨掛かりの多い箇所。
  + 温度差による⑩（　　　　　　）が溜まるところ。

■腐りやすい部位

* + 木材の⑪（　　　　）＝他部材と接していると、水が多く浸み込み乾燥しにくい部位。

■設計対応

* 軒の出を⑫（　深く / 浅く　）し、雨掛かりを少なくする。
* 軒先の雨だれの跳ね返り対策として⑬（　　　　　）・⑭（　　　　　　　）を施す。
* 雨どいが⑮（　　　　　）と竪樋外部を水が伝い、固定金物から壁内部に水が浸入することがあるので、雨樋にカバーを付けるなどして、落ち葉の季節や雨天時に点検する。
* 木材の木口から木材成分が染み出ることがあるので、汚れを防止するために、白壁は⑯（　　）階、木の壁は⑰（　　）階にする。
* 柱の足元の木口は、部材を密着させず⑱（　　　　　　）と乾きやすくお手入れもしやすい。
* 母屋・垂木の木口は、⑲（　　　　　　　）または胡粉で保護する。
* 部分交換しやすい納まりにする。

■腐朽の抑制

* 水分が溜まるところ、水分を吸収するところ、乾きにくいところが腐るが、⑳（　　　　　　）を浸み込ませれば、抑制できる。
* 木材を㉑（　　　　　　）で使うと、腐朽危険個所は分かり易く、お手入れしやすい。
* ㉒（　　　　　）発生の危険個所・配管周りは点検できるようにしておく。

３．シロアリ被害の防止

* 基礎立ち上がり部分の㉓（　　　）をチェックする。チェックしやすいようにまた風通しを確保するために、基礎をモノでふさがない。
* 地面と建物を結ぶ配管の㉔（　　　　）部分も注意。
* 春先の㉕（　　　　）に注意する。